

## 令和7年度 第2回 開成中学校運営協議会 会議録(要点記録)

- 1 開催日時 令和7年10月8日(水) 14時30分から16時15分まで
- 2 開催場所 開成中学校 多目的室
- 3 出席委員 吉田 葉津美、石川 夏紀、磯部 多秀、高林 正嗣、杉山 幸生、  
縣 延孝、白井 麗
- 4 欠席委員 名波 弘充、若松 由希野
- 5 学校支援コーディネーター 石原 清美
- 6 学 校 小川 誠司(校長)、山守 達大(教頭)、山田 亘(主幹教諭)、  
松本 敬介(CS担当)、山崎 智子(CSディレクター)
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 山崎 智子
- 9 議長の選出 司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、高林委員から杉山委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。
- 10 協議事項
  - (1)学校評価(前期)について
  - (2)令和8年度の学校運営の基本方針について
  - (3)部活動の地域展開について
- 11 会議記録 司会の山田主幹教諭から、委員総数9人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。
  - (1)学校評価(前期)について 議長の指示により、山田主幹教諭から、別紙資料に基づき学校評価(前期)について説明があり、委員からは以下の発言があった。
    - ・生徒へのアンケート項目「学校欠席率/遅刻率」の結果が未集計となっているが、1学期の集計はやめたのか。(杉山委員)  
→やめたわけではなく、未集計。おおむねでは、欠席者は毎日40人程度。(小川校長)  
→ちなみに目標数値はどくか。(杉山委員)  
→年間30日以上の欠席が不登校となるが、今は不登校50人未満を目標に取り組んでいる。(山守教頭)
    - ・生徒へのアンケート項目「私は、さわやかな挨拶をしている」の結果で、1年生の肯定的回答が他学年より低いのが気になる。1年生は部活動に加入している子も多いはずだが、指導はないのか。(吉田委員)  
→さわやかなあいさつかと聞かれるとどうなのか、聞き方の問題もあるのかもしれない。1学期門の前に立ち挨拶をしたが、1年生は自分から挨拶をする子は他学年よりも少し少なく、おとなしい子が多い印象を受けていた。(小川校長)
    - 教頭先生はどうか。(杉山委員)

→世間一般的には、部活動で挨拶の指導があると思われているが、そうではなくなってきて  
いる。強制するのではなく、挨拶の意義から教えていくという指導に変わってきて  
いる。だんだんできるようになってくれればよいと考えている。(山守教頭)

- ・このアンケートは浜松市共通なのか。(杉山委員)

→学校によって違う。各学校が自校のグランドデザインの重点項目に合わせて作っている。  
(小川校長)

- ・部活動の観戦によく行くが、よく指導されている学校は相手のチームの保護者にも挨拶がで  
きている。開成中もそういうところまでできるといいと思う。(縣委員)

- ・小テストをやっている先生とやっていない先生の差が著しく出ていた。それにより、クラス  
によって学力に差が出ると感じる。(白井委員)

- ・アンケート項目が抽象的な表現のものと具体的なものがある。(石川委員)

→アンケート内容が十分でないものもあるので、来年度に向けて見直していく。(小川校長)

## (2)令和8年度の学校運営の基本方針について

議長の指示により、小川校長から、別紙資料に基づき令和8年度の学校運営の基本方針について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・自他を尊重することに関して、自分の子どもが3人バラバラの中学に行っているが、  
開成中の生徒はここが一番欠けていると感じている。(白井委員)

- ・外国籍の子の割合はどのくらいか。(杉山委員)

→今現在70人弱くらい。(小川校長)

→言葉の壁はどうか。(杉山委員)

→最近は直接日本に来て、いきなり学校に入る子がいて、言葉の壁は当然ある。(山守教頭)

→日本語初期適応教室があるが遠くて通えない子もいる。そういう子には外国人担当者が  
日本語を教えている。(小川校長)

## (3)部活動の地域展開について

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき部活動の地域展開について説明があり、委員  
からは以下の発言があった。

- ・令和8年9月から地域展開が始まることは伝えられているけれど、いろいろなことがちゃんと  
決まっているわけではなく、内容が煮詰まっていないまま、決まったことだけが乱雑に先生  
や保護者に伝えられている印象。もやっとしたまま進んでいる。(杉山委員)

- ・指導者研修会に出た。そこでの説明では、地域展開は国が決めたことで、期限も決められてし  
まっているので、現場としてもとにかく進めなくてはならないという話だった。(縣委員)

- ・子どもがクラブチームに入りたいと思っていても、保護者の許可がでないことがある。部活動  
と比べて保護者の負担が大きいので、保護者の負担を埋められる策があるとよい。(吉田委員)

- ・部活動は教育の一環だが、クラブチームは技術の指導となる。部活動を通しての教育が薄れ  
ていくことには少し心配がある。(磯部委員)

- ・部活動をやりたくて教員になった先生もいると思うが、そういう先生方はどんな意見なの  
か。(縣委員)

→自分はバレーボールに携わっていたので、バレーに関していうと、地域クラブの指導はや

りたくないと言う先生が多かった。あくまでも学校生活とリンクする人間形成を目的とした部活動を指導したい人たちが教員には多いと感じる。(山守教頭)

## 12 その他連絡事項等

司会から、次回会議は、令和8年1月21日(水)午後2時30分からの開催でどうかとの提案があった。委員には後日さくら連絡網で出欠をとり、日時を決定する旨の連絡があった。